

2009年  
5・6月号

# TOKYOタイムズ トキオ

NO. 90  
岩本工業 (株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: [iwamoto@iwmt-kg.co.jp](mailto:iwamoto@iwmt-kg.co.jp)

社内報のバックNoを上記にて御覧下さい

## 奇跡のりんご 根張り(粘り)が必要!

H21年5月吉日 岩本 博之

りんごは病害虫に弱く、化学的に合成された農薬や肥料を一切使わない無農薬では収穫量が10分の1になるそうです。その中で農薬に頼らないりんご作りを日本で初めて本格的に成功させ、インターネットで売り出すと10分で完売。腐らない、そんな「奇跡のりんご」を作るのが青森県弘前市の農家・木村秋則(57)さん。自然栽培に切り替えて当初7年間は、全くりんごが実らなかったといいます。何故?と思う方も多いかも知れませんが肥料によって甘やかされた土が、ある意味厳しい自然栽培に慣れていくには時間がかかるのです。木村さんはたとえ有機であっても肥料は毒だといいます。その毒が抜けるまで、丁度麻薬中毒患者の禁断症状のようにりんごが実らなくなる。本来りんごは落葉広葉樹で葉を散らすものです。しかし一般の畑のりんごは冬に雪がどっと積もるまで木の葉を散らしません。これを見て木村さんはりんごが農薬や肥料で呆けていると考え、秋口にりんごの木の周りの草を刈って冬を知らせてみたのです。するとりんごの木は森の木と同じように葉を散らし、実に栄養がいきわたって美味しくなったのです。自然栽培に挑戦して7年目の年、一本一本の木に今まで間違った栽培をしていたことを謝り、元気に育ってくれる事を祈って回ったそうです。人目の気になる隣の家と面したりんごの木を除いてです。今ではたわわに実る木村さんのりんごの木ですが、驚く事に人目を気にして謝って回らなかったりんごの木は全部枯れてしまったのです。りんごの木だって葉がなければどうにもならない。葉は太陽のエネルギーを使って、水と二酸化炭素から炭水化物を作るわけだ。その葉を失ったりんごは生きていけない。腐乱病という病気でりんごの幹が腐ってしまい幹を切り倒すしかない時、元気のいい枝を一本残す。何年かするとその細い枝が立派な幹に育ち、枝葉を茂らせりんごの実をみのらせるようになる。枝は幹になるけど、その逆はない。

以上はネット上から引用

先日何気なくテレビを見ていると、旧国鉄バスの車掌さんがダム建設に伴い名金急行線の路線沿いに移植された**荊川桜**が再び開花したことに感銘を受け、1966年頃より名金急行線の道路沿いに桜を植え始め、「**桜のトンネル**」を目指すドラマを拝見しました。この中で「実生」みしよ、樹齢数百年の種から発芽させる苦勞を知ると共に、大地に**根を張らせる**……執念・粘りが何事にも重要だと再認識させられました。山と海の関係・技術者・子供の育成も同じ事が言えないでしょうか?「丹精込めて」森を手入れすれば緑豊かな木の葉が散って腐葉土になり、これが川の水によって海に運ばれる。広葉樹林が海の恵みにはとても重要で、「**ダムを作ると海が死ぬ**」の言葉に象徴されています。神が宿ると言われている山を削り森を破壊し、自然と共存し山を手入れしてきた人々を村から追い出すばかりでなく、土砂供給の減少に伴う海岸の侵食被害は日本全国で砂浜が毎年160ヘクタール(52万坪)消滅しています。大型バスが波を蹴って走ることが出来る石川県の**千里浜**も危機に瀕しています。

世界的大不況を受けて自動車の20~30%減産は30年前の生産に逆戻りしています。我が社も**三勤四休**を余儀なくされ、社内研修を5~6回/月実施しております。**30才代の若手社員も講師**となり、教える苦勞が血となり肉となる成果が目に見えてきています。35年前のオイルショック時代を振り返ると、草むしりをする程度で無為に時間を過ごしていましたが、現在は5S・QC活動や技能士取得率の向上で根を張った結果になり、少々の日照りでも耐え忍ぶ事が出来る喜びを感じている今日この頃です。 **感謝 感謝!!**

## 石川県人材育成優良企業表彰

3月24日 石川県庁

日頃の熱心な人材育成が評価され知事表彰を頂きました。

【今年度は県内で石川サンケン(株)・東邦ゴム加工(株)・(株)永島製作所の4社】

我社は15年前より技能検定とQC活動の取組みに力をいれておりましたが、ここ8年で技能検定の合格率を飛躍的に高めた事が認められました。この表彰は人材育成の取組みの機運を高めるだけではなく企業意識の向上を計る目的があります。これからも“優良企業”の名に恥じぬようにしていきたいものです。



谷本知事より表彰状を受け取る西村常務  
指導の核として活躍しています。



記念の盾

## 全社員参加 社内研修会

第3係 荒野泰之

3月20日白山市民交流センターで3回目となる講習会があり、午前は石川県職業能力開発協会より瀬端 彰 講師、午後から本裸子製作所代表で又異業種交流グループ理事長でもあられる、本 祐一 講師のお二方を招いて開催されました。瀬端講師からは『人材開発・技能伝承』に関して、本講師からは『異業種交流の取り組み方』について自分づくり・物づくりを中心にお話して頂きました。様々なお話の中で、お二方どちらの講師からも100年に一度の不況と言われている今、会社・自分を見直す良い時期ではと言われていました。現状に満足せず、常に問題意識を持ち行動し色々な角度から物事を見る事により創意工夫・現場の知恵・個人の成長といった人間力の向上が生まれてきます。今日の講習を期に、全社員が今迄の自分に満足せず蜕变(蛹が蝶になるように)する為の第一歩になればと思います。



午前の瀬端講師の講義



午後の本講師の講義